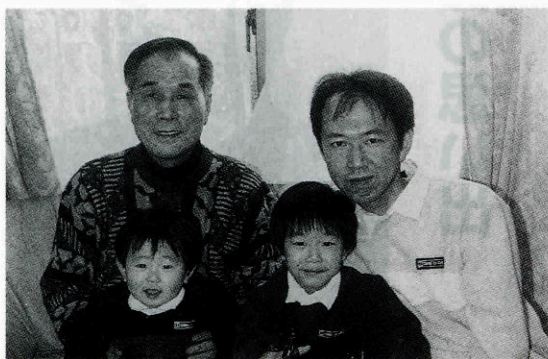


少年時代に帰れる故郷 長門市

ふるさとながと・こんにちは

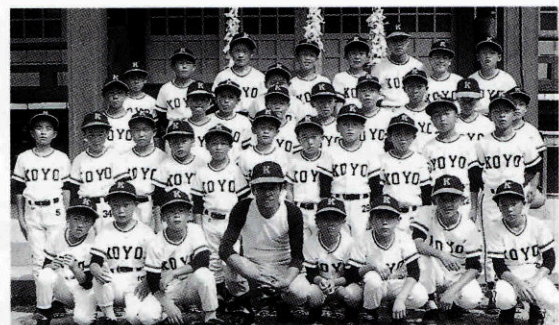


亀田一太さん

かめだいちた/昭和43年生/福岡県筑紫郡在住/湯本区出身/菱電エレベータ施設(株)勤務

私にとつての長門市の思い出は、向陽小学校時代に熱中していたソフトボールでしょう。当時は新校舎建設の為、学校のグラウンドが使用できず、大寧寺のグラウンドで練習していました。長門市を離れた今でも初詣などで大寧寺を訪れると、現在はグラウンドが墓地に変わってしまったのですが、当時決して強いチームではありませんでしたが、一回戦突破を目標に練習に励んでいた頃を懐かしく思い出します。今、福岡県那珂川町に住んでいますが、通勤で博多駅を歩いていると時々長門市の物産展が開催されているのを見かけます。又、あらゆるメディアで長門市の特集を見たり聞いたりする機会が増え大変嬉しく思います。那珂川町は近年、福岡市のべ

ットタウンとして急速な発展を遂げています。長門市も私が見家へ帰省する度に色々開発が進んでいます。嬉しい反面どこか寂しい感じもします。これからも長門市の発展を願っていますが、いつでも少年時代に帰れる様な、古き良き物との共存を図りながらの発展を期待します。



小学5年生の時、初めて作ったユニホームを着て(前から3列目、一番左が亀田さん)

「体を動かすことと世話をやるのが趣味のようなもの」と刀祢さん。公民館活動のみずッ学級に老人クラブ、詩吟、カラオケ、そしてダンスにも参加している。おかげで週の半分は出かけているという。

「みずッ学級では、行事を計画したり、連絡したりとお世話をさせてもらっています。史跡を探訪したり、健康講座を開いたりみんなで楽しみながら勉強しています。老人クラブではみんなで昼食をとった後『ほけない音頭』を唄ったりと演芸係もやっています」と笑う。

好きなカラオケは、川中美幸の『二輪草』が十八番だそうで、レパートリーは

趣味であり生き甲斐



—達者です—

刀祢ヒサヨさん

とねひさよ/79歳/南町区

数えきれない。「毎日、テープを聴きながら床にしています」と。料理も好きで、作った漬物やおかずを知り合いの人におすそ分けするのが楽しみ。「喜んでもらうのがまた嬉しいんです」とも。

本当に活動的で年齢を感じさせない刀祢さん。「どれもこれも趣味であり、私にとつての生き甲斐なんです。体が動く限り続けていきたいですね」と話してくださいました。

